

都市整備

新小平駅周辺の都市基盤整備について

小野高一議員(政和) ①鎌倉公園の整備検討基礎調査の、現在までの取り組み状況と課題は。

②新小平駅周辺で鎌倉公園とともに農業公園を整備し、観光まちづくりの拠点にできないか。

市長 ①整備に向けた可能性の検討等、現状や課題の把握に取り組んでいる。公園用地の取得等の課題があるが、調査結果を参考に、適切に判断していく。

②農地等地域資源の活用という点でも、農業公園の整備を鎌倉公園の整備の中で実現することは具体的方法の1つと考える。

小平駅周辺のまちづくりと3・4・19号線の整備進捗について

虻川 浩議員(公明) ①小平駅北口地区市街地再開発準備組合の今後の方向性と市の役割は。

市長 ①29年度内の都市計画決定を目標に、より一層の合意形成を図りながら、事業計画書の検討等を進める予定である。

②計画区間の一部が小平霊園の区域と重複するため、道路と霊園双方の機能確保等について関係機関と調整し、整備手法等具体的な検討を行っていくと聞いている。今後も東久留米市と情報共有しつつ事業化を目指す。

鷹の台駅周辺のまちづくりについて

山岸真知子議員(公明) ①コミュニティタクシーの鷹の台駅への乗り入れが望まれるが、実現への見通しについて、見解は。

市長 28年3月に介護予防・日常生活支援総合事業を開始し、5月に生活支援コーディネーターを配置して地域包括ケアシステムの構築へ取り組み始めた。引き続き、地域の特性を踏まえ、高齢者が安心して住み続けられる地域づくりに取り組んでいく。

市民委員児童委員の現状と課題について

中江みわ議員(フオ) ①民生委員児童委員の活動の実態をどのように把握しているのか。

②多忙感の解消や担い手の確保について、市はどう考えるか。

市長 ①毎月の活動記録の提出で日常の活動内容を把握できるほか、連絡調整等を行う定例会を地区ごとに毎月開催している。

②他部署等からの依頼は担当課が取りまとめ、内容を精査した上で対応を図るなどしている。地域で社会教育活動等をしてい

福祉

磁気ループの貸出システムを確立し、聞こえのバリアフリーを

吉瀬恵美子議員(共産) ①磁気ループの公民館等における導入時からの利用状況は。

②管理担当部署を高齢者支援課や障がい者支援課に特定して、各施設管理者に貸し出すシステムを確立してはどうか。

教育長 ①27年度17件、28年度は現在まで4件の申請があった。

市長 ②磁気ループの有効活用により、聴覚障害者や高齢者の積極的な社会参加が期待できることから、今後の配置や貸し出し方法も含め、検討していく。

シニアにやさしい街総合シンキングに見る市の現状について

竹井ようこ議員(フオ) 28年8月9日に公開された日本経済新聞社のシニアにやさしい街総合シンキングで、生活支援・予防の8項目と社会参加の5項目が順位を下げたが、それらの項目への今後の取り組み方針は。

調査を実施し、大きく生活機能が低下している人等を訪問し、必要なサービスの利用を促した。

若者の認知症サポーターをふやして市の見守り力アップを

松岡 篤議員(政和) ①近隣26市における認知症サポーターの人口比率の順位は。

②若い世代の地域の見守りの担い手をふやすために、どのような戦略があるか。

市長 ①27年度末では、26市中25位で、おおむね45人に1人が認知症サポーターとなっている。

②小・中学校での認知症サポーター養成講座の実施を目指すほか、青少年対策地区委員会や地域の団体等へ、同講座の実施を働きかけていく。

安心して老後を暮らせる介護保障を

木村まゆみ議員(共産) ①介護保険の認定申請者をチェックリストとして扱う場合、それは誰がどこで判断するのか。

②介護保険制度第6期開始以降直近まで、何人が更新時に要介護から要支援に落とされたか。

市長 ①相談者の意向等確認した上で必要な手続を案内しており、相談者が認定申請を希望した場合は申請してもらっている。

②更新時に要介護から要支援に変わったのは、27年4月から28年5月までで332人である。

よう連絡等が必要だが、見解は。

②生活困窮者自立支援法の相談事業における課題は。

市長 ①相当額の預貯金を保持していても、生活保護法の趣旨にかなえば保有が認められるので、その内容の周知等していく。

②さまざまな課題を抱える生活困窮者を早期に見出し、個々の状況に応じた支援につなげられるかが課題と捉えている。

福祉の向上のために保健福祉オンブズパースンの設置を

平野ひろみ議員(生ネ) ①各福祉部署と異なる立場から苦情への対応を行う苦情対応機関を市で設置することへの見解は。

②小平市地域保健福祉計画・福祉のまちづくり推進計画の次期計画で、進行管理を含む評価体制を確保することへの見解は。

市長 ①第三者委員等の設置により、利用者の立場や特性等に配慮した適正な対応を推進しているため、設置は考えていない。

②小平市福祉のまちづくり推進協議会において検討していく。

※保健福祉オンブズパースンとは 保健福祉サービス利用者の苦情を受け付け、公正、中立に調査し、必要なときは意思表明や是正勧告ができる仕組みのこと。

障がい者や高齢者にやさしいまちづくりを

踏まえ設置しており、一定の整備はできていると考える。引き続き、設置の要望がある場合には、交通管理者の協力も得ながら必要な調整を図っていく。

教育長 ②福祉施設等への訪問や高齢者疑似体験等を通して、理解を深める工夫をしている。

②都と補助協議中の事業者が2件ある。近隣住民への周知を行い、整備計画への理解を得られるよう努めている段階である。

富山型デイサービス

滝口幸一議員(フオ) ①誰もと一緒に身近な地域でデイサービスを受けられる富山型デイサービスを展開する上での課題は。

②超高齢社会の課題に対応する独自施策展開について展望は。

市長 ①多様な利用者受け入れのため、知識や経験豊富な職員が必要ことや、小規模な施設のため経営面の安定が図りづら

いことなどが課題と捉えている。

②地域包括ケアシステムの構築を進める中で、地域特性に応じた生活支援の体制づくりや身近な通いの場の充実に努めている。

高齢者が安心して地域に暮らし続けるために

津本裕子議員(公明) ①杉並区高齢者等入居支援事業等のような、高齢者の転居先を探すことに協力してくれる不動産店を紹介する制度を創設できないか。

②高齢者の入院の際、身元保証がなされない場合の対応策は。

市長 ①市民から相談があった場合は、東京シニア円滑入居賃貸住宅情報登録・閲覧制度の紹介などを行っていく。

②成年後見制度利用を踏まえ、

病院や親族と調整を行うなど、地域包括支援センターなど関係者と連携し個別に対応している。

認知症の方と家族を地域で支えるために

さとう悦子議員(生ネ) ①認知症高齢者を在宅介護している家族に対する支援は何かあるか。

②認知症疾患医療センターと連携して、認知症患者や家族をどのように支援しているか。

市長 ①地域包括支援センターなどのケアマネジャーによる個別相談のほか、オレンジカフェ、家族介護教室、徘徊高齢者家族支援サービスがある。

②28年度は医師による認知症相談会を5回行う予定である。今後は認知症に関する地域連携の推進や、専門医療、地域連携を支える人材育成等に期待する。

誰かが差別されず、自分らしく生きる地域や社会をつくる

橋本久雄議員(緑) ①相模原市の障害者施設での事件を受けて、どのような対応を考えたか。

②市内に暮らす障害者が生活する上で、どのような課題があるかと考えているか。

市長 ①施設での防犯等安全管理確保について、市内障害福祉施設へ周知した後、市内入所施設に対してその確認をしている。

②障害への理解や社会参加がまだまだ進んでいないなど、共生社会の実現のための、心のバリアフリー化が普及していない状況が課題であると考える。

特別養護老人ホーム等整備と年金について

細谷 正議員(共産) ①多額の赤字となった年金積立金の運用について、情報収集と要望を



疑似体験で高齢者への理解を深める



認知症の人とその家族がくつろげるオレンジカフェ

掲載分以外の質問項目

〔行政一般〕

○市長が公務中に都知事選挙の政治活動をしたことは問題です
〔子ども・女性〕
○保育園建設時の市からの住民説明について